

まほるば



病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第80号

2008年2月発行

【コラム】『ご意見箱』へ寄せられたご意見の行方

今はどこの病院にもありますが、当院でも院内の6カ所に『ご意見箱』を設置しています。これは患者さんやご家族、お見舞いに来られた方々からご意見をいただき職員の接遇や環境、病院食等の改善をすすめるための宝箱なのです。

『ご意見箱』に寄せられたご意見がどのような経過を辿るか説明します。まず、毎週木曜日にすべての『ご意見箱』を開き用紙を回収します。毎週3～6枚あります。翌日の金曜日朝の幹部会議で、管理課長が回収されたすべてのご意見を紹介し、対応が必要なものについてはその方法と対応部署や改善の期限を決めます。日頃から早

期改善を心懸けてきましたので、接遇等はかなり改善され、最近ではお褒めの言葉を頂くまでになりました。これに満足せずに、私たちはこれからも努力して参ります。



しかしながら建物についてのご指摘の中には改築しなければ解決できない問題が沢山あります。早急に建替整備が出来るよう努力していますので、もうしばらくお待ちください。

院長 五十嵐 勝朗



【救急医療懇談会】

当院の救急医療をより円滑に進めるための救急医療懇談会を1月31日弘前パークホテルで開催しました。

懇談会は、救急隊の所属する弘前市消防本部と受け入れ先である当院が、情報交換することで、お互いの理解を深めることを目的に開催され、消防本部からは、尾崎消防長をはじめ、各支分署の救急救命士を含めて10名、当院は五十嵐院長、医師、看護師、放射線科、検査科、事務職員など34名、合計44名の参加がありました。

佐藤副院長から、当院の救急輪番の現状、救急患者



の症例報告が、消防本部小田桐警防課長からは、救急救命士の養成、AED講習会の取り組み、管内の救急出動状況などが報告されました。

出席者からは活発な意見が出され、2時間の予定を約30分オーバーし終了しました。

今後お互いに協力し合い、地域の救急活動を充実させていくことで意見が一致しました。

管理課長 大類 靖



【“わが診療科、ここが自慢”

—耳鼻咽喉科—

現在の国立弘前病院耳鼻咽喉科は、前任医長渡辺貴和子先生のご退任後、黒田、武田の女性医師2名が担当しています。大学病院を除き、女性耳鼻咽喉科医師が常勤で勤めているのは弘前地区では当院だけのためか、5歳以下の小児患者の方々が3割近くを占めています。

初めは泣いてばかりのお子さんたちも、だんだんと処置に慣れ、ひとりで診察を受けられるようになる頃には病状も安定し、たくさんお話をしてくれるようになります。耳鼻咽喉科外来は子供たちの声で活気にあふれています。一方、扁桃腺（全身麻酔）、副鼻腔炎（多



くは局所麻酔）の手術を中心に、年間200件の手術を行っています。中でも全身麻酔の手術は、昨今の麻酔科医不足のため、2～3ヶ月待ちと皆様にご迷惑をお掛けしていますが、大学病院やその他近隣の病院とも連携しながら、患者の皆様のご意向に沿えるよう、出来るだけ工夫を凝らしています。

また当院では、睡眠時無呼吸症候群の検査と治療に積極的に取り組んでおり、重症度によりC-PAP、栄養士による生活指導、口内装置作製のご紹介から手術までと、幅広い選択肢の中から患者様に合った治療をお勧めしています。

もしや私も睡眠時無呼吸症候群では？と思われる方は、ぜひ一度受診なさってみてください。

耳鼻咽喉科医長 黒田 令子

「リンクナース活動報告会」

平成18年12月、各職場における感染対策担当者として感染管理の知識・技術を習得・推進し、医療・看護の質の向上を目指すためのリンクナース委員会が発足しました。その後一年間の各委員の取り組みについての報告会が1月30日（水）地域医療研修センターで開催されました。



委員会での学びを通して、水回り・汚物室・注射作業台の環境整備や所属部署の問題点を把握し、スタッフが感染対策への関心を持ち、実行できるように働きかけた事などの報告がありました。

他の委員の報告は、今後の働きかけの参考となり、とても良い機会となりました。最後に感染管理看護師より、今年度は感染予防を確実に実践できるように組織として活動していくことが述べられました。

委員全員が、リンク（連結）の役割を担い、“患者様に安心と安全を提供できる、先手の看護をめざして”今後も感染予防に取り組みたいと思います。

東2病棟看護師 小田桐 恵

【教育セミナー】『消化器疾患の救急対応』開催

当院職員や登録医、その他医療関係者を対象とする教育セミナーが65名の参加を得て開催されました（平成20年1月29日18:00）

今回のセミナーは本年度のテーマである『救急シリーズ』の第3弾で、当院消化器科部長の中畑 元先生から『消化器疾患の救急対応』と題して講義していただきました。先生の講義は腹痛の病態生理についての解説から始まり、腹痛を来たす疾患、悪心や嘔吐を主訴とする疾患などいわゆる消化器症状を呈する疾患とその鑑別について説明がありました。しかしこのような症状を呈する病気は実は消化器疾患ではなく、循環器や尿路系、生殖器など他の臓器の障害に由来する

ことが多いとのこと。後半は消化器出血について、その対応としての内視鏡による止血の実際がスライドで示されました。消化器出血が診断された場合の治療方針の決定、エタノールの注入やクリップなどによる止血のテクニック、治療の経過観察など、まさに経験豊かな専門医ならではの話を聞くことができました。



臨床研究部長 泉井 亮

【特別講演会】富山大学産婦人科 斎藤滋教授をお迎えして

2月5日、富山大学斎藤滋先生による「早産の予防」をテーマとした講演が開催されました。細菌性膣症、



感染、炎症から発症する早産のメカニズムを最新のトピックスを交えて解りやすくご説明いただきました。

周産期に携わるものにとって早産は避けて通ること

のできない最大重要課題です。

そして早産の予防は、一施設だけの問題ではなく、妊産婦を取り巻く地域全体の問題です。今回は、他科の先生方、スタッフ、開業医の先生方も多数お集りいただき、良い勉強の機会となりました。

今年から当院も厚生労働省科学研究班「早産の発症要因とその予防」を課題とする共同研究班（班長：斎藤滋教授）の一員として参加いたします。より良き周産期医療を目指して、産婦人科スタッフ一同頑張りたいと思っています。

産婦人科医長 真鍋 麻美

【市民講座】◇じんま疹の話◇

蕁麻疹は比較的好くある病気で、15～20%の人は一生のうちに一度は経験すると言われています。蕁麻疹にはさまざまなタイプがあり、原因として、食物や薬物、感染症によるもの（急性感染性蕁麻疹、ウイルス性蕁麻疹）、コリン性蕁麻疹（汗、疲労、ストレスなどによる）、機械的、物理的刺激、寒冷、温熱刺激、日光、精神的ストレスなどが挙げられますが、約90%において原因を特定できないといわれています。

食物が疑われる場合には、採血検査



やprick-prick test（疑わしい食物に小さい針で刺し、その少しだけ食物がついている針を患者さんの前腕に刺し、15分で判定）など行う場合もあります。急性感

染性蕁麻疹では、一般的な蕁麻疹の治療だけでは反応せず抗生物質の内服を併用することにより効果がみられることがあります。また一部、心因性が増悪因子として疑われる場合には、抗不安剤などの内服を併用し効果が得られる場合もあります。

皮膚科医師 熊野 高行

外来診療一覽

◆外来医師診療一覽表 (2008年2月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総合診療外来		/	/	大 串 和 久	/	/
内科		人 見 博 康	小 沢 一 浩	人 見 博 康	小 沢 一 浩	小 沢 一 浩
呼吸器科		山 本 勝 丸	中 川 英 之	中 川 英 之	山 本 勝 丸	中 川 英 之
消化器科		佐 藤 年 信 中 畑 元	佐 藤 年 信 中 畑 元	佐 藤 年 信 中 畑 元	中 畑 元 (藤 田 均)	佐 藤 年 信 中 畑 元
小児科		杉 本 和 彦 大 谷 勝 記	野 村 由美子 佐 藤 啓	杉 本 和 彦 大 谷 勝 記	佐 藤 啓 野 村 由美子	野 村 由美子 杉 本 和 彦
外科		田 澤 俊 幸 三 上 勝 也	高 橋 克 郎 三 上 勝 也	横 山 昌 樹 田 澤 俊 幸	横 山 昌 樹 高 橋 克 郎	三 上 勝 也 横 山 昌 樹
整形外科	午前	柿 崎 寛 近 江 洋 嗣 上 里 涼 子	柿 崎 寛 工 藤 幸 三 又 は 藤 幸 三	柳 澤 道 朗 近 江 洋 嗣	柳 澤 道 朗 又 は 近 江 洋 嗣 加 藤 幸 三 又 は 工 藤 整	柿 崎 寛 柳 澤 道 朗
	午後	/	/	/	/	柿 崎 寛
脳神経外科		/	/	木 村 正 英	/	/
皮膚科	午前	熊 野 高 行 佐 藤 正 憲	佐 藤 正 憲 熊 野 高 行	佐 藤 正 憲 熊 野 高 行	熊 野 高 行 佐 藤 正 憲	熊 野 高 行 佐 藤 正 憲
	午後	● 予 約	● 手 術	● 予 約	● 手 術	● 予 約
泌尿器科		大 和 隆	大 和 隆	大 和 隆	大 和 隆	大 和 隆
産婦人科		真 鍋 麻 美 工 藤 香 里	佐 藤 春 夫 田 中 加 奈 子	真 鍋 麻 美 工 藤 香 里	● 妊 婦 健 診	佐 藤 春 夫 田 中 加 奈 子
眼科		蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義	蒔 苗 順 義
耳鼻咽喉科		黒 田 令 子 武 田 育 子	黒 田 令 子 武 田 育 子	● 手 術	黒 田 令 子 武 田 育 子	黒 田 令 子 武 田 育 子
放射線科	診断	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄
	治療	/	阿 部 由 直 (午後)	/	/	/
麻酔科		● 手 術	● 手 術	● 手 術	工 藤 明	● 手 術
女性専用外来		杉 本 菜 穂 子 (※ 予 約 制 / 第 1 ・ 第 3 火 曜 日 午 後 診 療)				
セカンドオピニオン		/	/	/	今 充	/

※学会、出張などにより担当医師が変わる場合があります。

【シリーズ】臨床検査のABC⑰ 腎機能検査と電解質検査

今回は腎機能検査と電解質検査についてです。

■腎機能検査

○BUN 基準値

8~22mg/dL

蛋白質を構成するアミノ酸の最終代謝産物で腎臓から尿中に排泄されます。

値が上昇する疾患

：糸球体腎炎、腎不全など

○クレアチニン 基準値

男性0.6~1.1mg/dL

女性0.4~0.7mg/dL

筋肉などのエネルギー源となった物質の代謝産物で腎臓から尿中に排泄されます。

値が上昇する疾患

：糸球体腎炎、腎不全など

■電解質検査

体液中にはナトリウム、カリウム、クロール、などのイオンが存在し、それを総称して電解質といいます。

○ナトリウム 基準値 138~146mEq/L



体内の水の調節に重要な役割を果たしています。

値が上昇する疾患

：脱水症、糖尿病、慢性腎不全など

値が低下する疾患

：浮腫、下痢、嘔吐など

○カリウム 基準値 3.6~4.9mEq/L

神経や筋肉の興奮性に関与し、特に心臓の筋肉に大きな影響を及ぼします。

値が上昇する疾患

：腎不全、炎症、外傷、火傷など

値が低下する疾患

：下痢、嘔吐、ネフローゼ症候群など

○クロール 基準値 99~109mEq/L

ナトリウムと同様に体内の水の調節に重要な役割を果たしています。また胃酸の成分でも有ります。

値が上昇する疾患

：食塩の過剰摂取、脱水症、慢性腎疾患など

値が低下する疾患

：尿崩症、嘔吐など

※次回は、糖代謝検査についてです。

血液主任 工藤 智木

【只今、新メニュー検討中！】

栄養管理室では、冬期間限定のみそラーメン、マグロ漬け丼、海鮮丼と食材費を度外視？したメニューを展開中です。しかし、冬期間限定献立もそろそろ終わりを迎えています。そこで、新メニュー検討チーム（調理師・栄養士の編成チーム）が1月から思案検討し、試作品の吟味を重ねて来ました。そして、第一弾は2月29日に「ヒレカツ丼」、更に3月12日には「鯛めし」を立て続けにシェイクダウンします。「ヒレカツ丼」のポイントは卵のとじ具合です。半熟調理の度合いは安全性もさることながら、嗜好の面でも個人差があるので難しい料理です。また、「鯛めし」は土鍋で焼いた鯛と一緒に炊き上げる料理ですが、鯛をほぐす時に小骨がごはんに入ると非常に危険です。また、最初から混ぜ込んで提供すると、見た目にもよくありません。調理師それぞれイメージがぶつかり合い、かなり、本気でスイッチON状態です。ここ弘前では「鯛めし」を食べる習慣がありませんが、当病院のアレンジでおいしく患者様に提供できると確信しております。新メニューに是非ご期待くださいね！

主任栄養士 野呂 直子



【幽玄の世界へ誘う光 —第32回弘前城雪燈籠まつり—】



2月8日（金）から11日（月）の4日間開催された「第32回弘前城雪燈籠まつり」。会場の弘前公園には、今年もまた見事な雪燈籠や雪像が現れました。



雪が少なかった昨年とは違い、園内は真っ白な雪に包まれ、メイン会場の四の丸に現れた「日本聖公会弘前昇天教会」と「角み呉服店」の大雪像はライトアップされ荘厳な雰囲気を感じさせていました。

題材となった「日本聖公会弘前昇天教会」は、赤煉瓦造りのゴシック様式で、大正10年に建てられ、住所地から別名「山道町の教会」と呼ばれて親しまれています。もうひとつの雪像「角み呉服店」は、現在の「角み小路」の由来ともなった老舗の呉服店で、バルコニーと八角堂がある3階建ての白亜の洋

館でしたが、残念ながら昭和の初めに火災に遭い、現在は追手門広場内のミニチュア建造物でしかその姿を見ることができません。しかし、今回の精緻な再現により、当時の威風堂々とした姿が容易に想像できました。



公園内西堀沿いのミニかまくら群も毎年の楽しみの一つです。日没からミニかまくらひとつひとつに橙色の口ウソクが点り、ほんわりと暖かな光に包まれます。しばらく足を止め、寒さも忘れて眺めてしまいました。

4日間と短い開催期間でしたが、日中のイベントも盛りだくさんで、来年もぜひ会場へ出掛けたいと思いました。

庶務係 工藤 真叔

【今月の川柳】

★【川柳募集】 あなたの川柳をお待ちしています。

あばれる子 そんなに元気で どごわるい？

津軽弁 言われて看護師 思案顔

※ 掲載した作品は、広報誌編集委員会で選出したものです。

お知らせ

◆ 苦情相談窓口

患者様やお見舞いの方などからの苦情や相談は、『患者相談室』のMSW（メディカルソーシャルワーカー）や、院内6か所に設置している『ご意見箱』で対応しています。

なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

発行元 **独立行政法人国立病院機構弘前病院**
Hirosaki National Hospital
責任者 副院長 佐藤 年信

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL0172-32-4311 FAX0172-33-8614
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>